

平成 29 年度 8020 運動推進特別事業 事業報告

○青年期における歯と口の健康サポーター養成事業 (一般社団法人大阪府歯科医師会委託事業)

1 事業目的

大阪府内における大学・短大・専修学校（以下「学校」とする）における保健担当者を「歯と口の健康サポーター」として養成し、「歯と口の健康サポーター」が学校において、学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけを行うことにより、学生の歯科口腔保健の意識向上を図る。

2 事業結果

2-1 歯と口の健康リーダー連絡調整会議の実施

平成 29 年度事業の実施に当たり、歯と口の健康リーダー（地域における公衆衛生事業の中心的役割を担う歯科医師）と有識者（歯と口の健康サポーター養成プログラム検討会委員）の間で、歯と口の健康リーダー連絡調整会議を行った。

○「歯と口の健康リーダー連絡調整会議」概要

【開催日時】平成 29 年 10 月 26 日（木）14 時～

【開催場所】大阪府歯科医師会

【協議・説明内容】

(1) 平成 29 年度事業実施について

(2) 歯と口の健康サポーター養成研修会について

【講師】大阪府歯科医師会理事 山上 博史

大阪府歯科医師会理事 山本 道也

- ・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
- ・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法
- ・「歯と口の健康サポーター養成研修会」の開催方法
- ・歯科口腔保健の重要性についての動機づけの方法
- ・事業施設実施地域の選定（特定の地域に偏ることがないように取り組む）
- ・平成 28 年度事業の効果検証
- ・その他、事業実施に関わる事項

【参加者】15 名

（参加地区：サポーター養成研修会実施地区 6 名、周知広報実施地区 9 名）

(3) 歯と口の健康リーダーによる学校への普及啓発と実態調査について

(4) その他

2-2 歯と口の健康サポーター養成研修会の実施

「歯と口の健康リーダー」が中心となり、「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」（平成26年度事業作成資料）を活用し、大学・短大・専修学校における保健担当者等に対し、学校において「学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけ」を行うための取り組みを行う「歯と口の健康サポーター」として育成するための研修会を、地域において合計2回行った。

平成28年度に周知広報・実態調査を行った学校（24校）に研修会への参加を呼びかけた。研修会への参加校は合計で5校、参加者は合計で6名であった。

【研修会内容】

- ・学校における歯と口の健康づくりの意義について（講義形式）
- ・歯と口の健康づくりに関する基礎知識（講義形式）
- ・歯と口の健康づくりに関する意識向上について（ワークショップ形式）

(1) 地域における「歯と口の健康サポーター養成研修会」実施状況

(ア) 圏域名：北河内

【開催日時】平成29年12月14日（木）15時～17時

【開催場所】大東市市民会館

【研修会講師（ファシリテーター）】（順不同・敬称略）

大東・四條畷市歯科医師会 専務理事 吉野 源吾

大東・四條畷市歯科医師会 公衆衛生理事 三谷 卓士

【参加者】2名

【参加校】2校

【研修会の進行表】

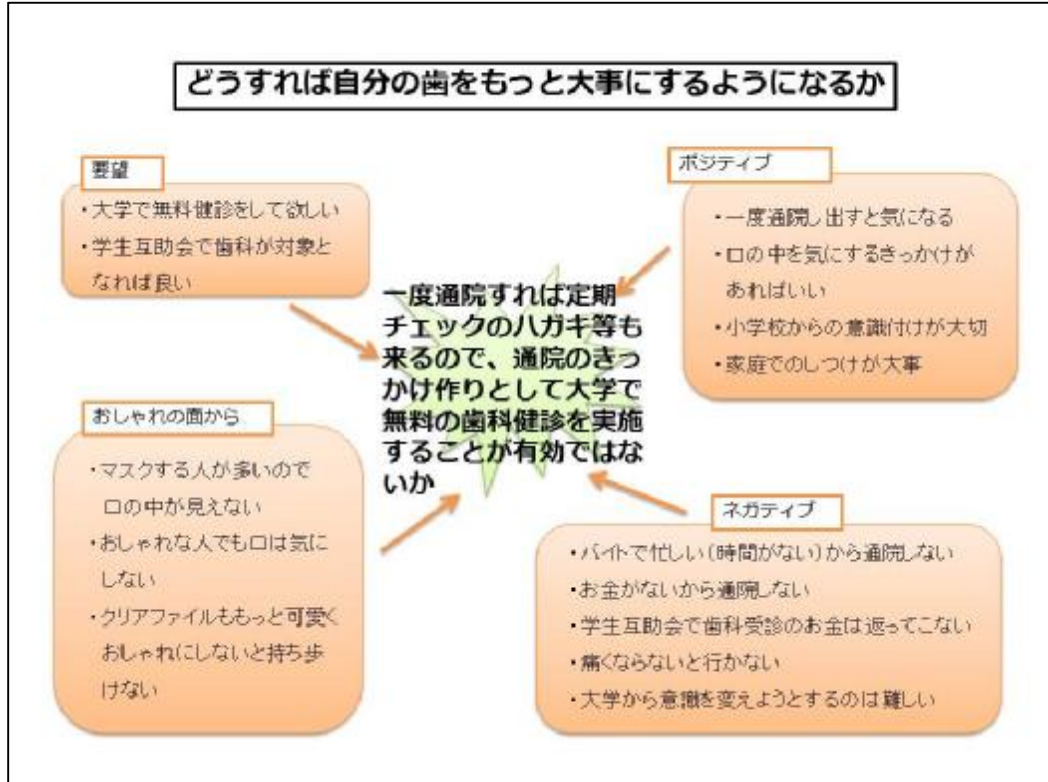
時間	内容
15:00～15:05	開会あいさつ
15:05～15:15	事前説明1 本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における歯と口の健康づくりの意義について
15:15～15:40	事前説明2 歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマについて
15:40～15:45	事前説明3 ワークショップの進め方
15:45～15:50	トイレ休憩
15:50～16:20	グループディスカッション
16:20～16:40	グループごとの発表、質疑応答、まとめ
16:40～17:00	アンケート記入
17:00	閉会

【グループディスカッションのテーマと結論】

< Aグループ >

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：



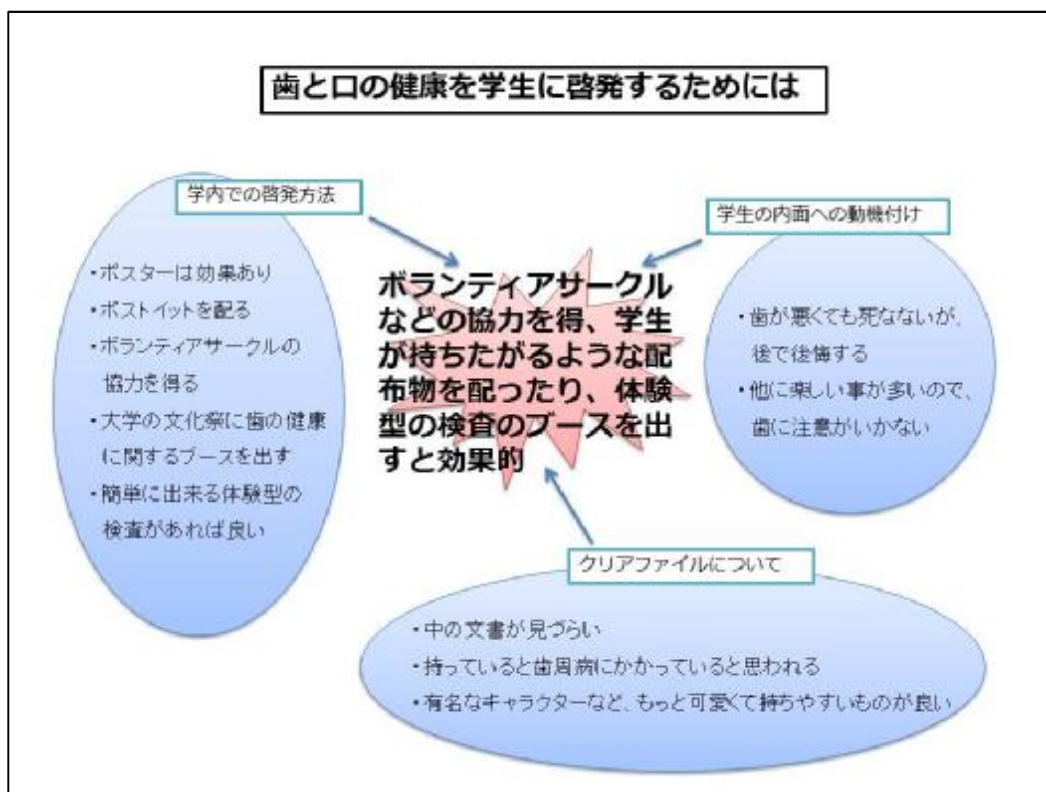
結論：一度通院すればその後は歯を大切に意識が生まれると思うので、通院のきっかけ作りとなるような無料健診等を学内で実施することが有効だと考える。

ファシリテーター意見：歯を気にしない理由として、やはり学生ということで、お金がないから歯科医院に通わないという意見がある。また、学生互助会で医科診療分と歯科診療分の扱いが違うという話があり、参加してくださった方の学校では歯科診療分の給付がないということだった。実際に互助会へ歯科の治療費は返金されないのかといった問合わせもあるということで、制度が適用されれば、金銭面の影響で歯科受診をしない学生には効果があるのではないかと感じた。

< Bグループ >

テーマ：歯と口の健康を学生に啓発するためには

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：ボランティアサークルなどに協力を仰ぎ、文化祭等で歯科関連のブースを出し、学生が持ちたがるような配布物を配るとともに、体験型の何か検査をすると効果があるのではないかと考える。

ファシリテーター意見：有名なキャラクター等を使用するのは難しいと思うが、周りから見られて自分が歯周病だと疑われないような、表に出して持ち歩けるような啓発物でないと、学生にはなかなか使いづらいと感じた。歯科医師会から文化祭等でブースを出すのは難しいかもしれないが、ボランティアサークル等と協力するというのは良いアイデアだと感じる。

(イ)圏域名：中河内

【開催日時】平成30年3月20日（木）13時30分～15時30分

【開催場所】東大阪市西歯科医師会事務所

【研修会講師（ファシリテーター）】（順不同・敬称略）

東大阪市西歯科医師会 専務理事 奥田 宗義

東大阪市西歯科医師会 常務理事 岩田 秀雄

【参加者】4名

【参加校】3校

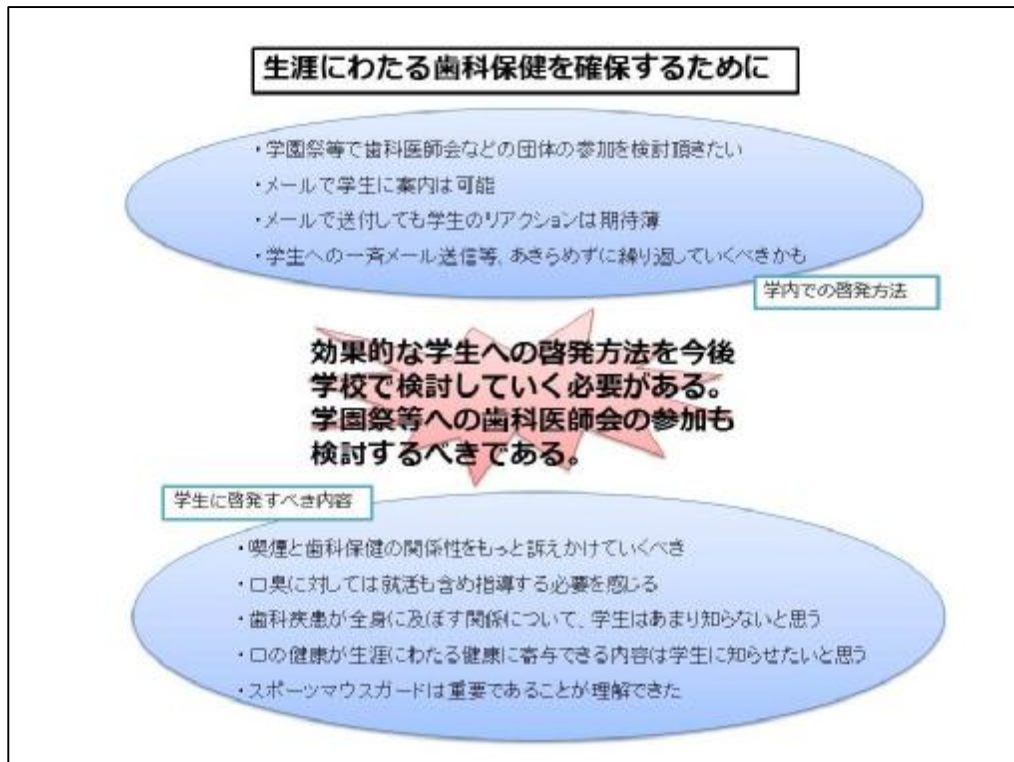
【研修会の進行表】

時間	内容
13:30～13:35	開会あいさつ
13:35～13:45	事前説明1 本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における 歯と口の健康づくりの意義について
13:45～14:10	事前説明2 歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマについて
14:10～14:15	事前説明3 ワークショップの進め方
14:15～14:20	トイレ休憩
14:20～14:30	アイスブレイク
14:30～15:10	グループディスカッション
15:10～15:25	グループごとの発表、質疑応答、まとめ
15:25～15:30	アンケート記入
15:30	閉会

【グループディスカッションのテーマと結論】

< Aグループ >

テーマ：生涯にわたる歯科保健を確保するために

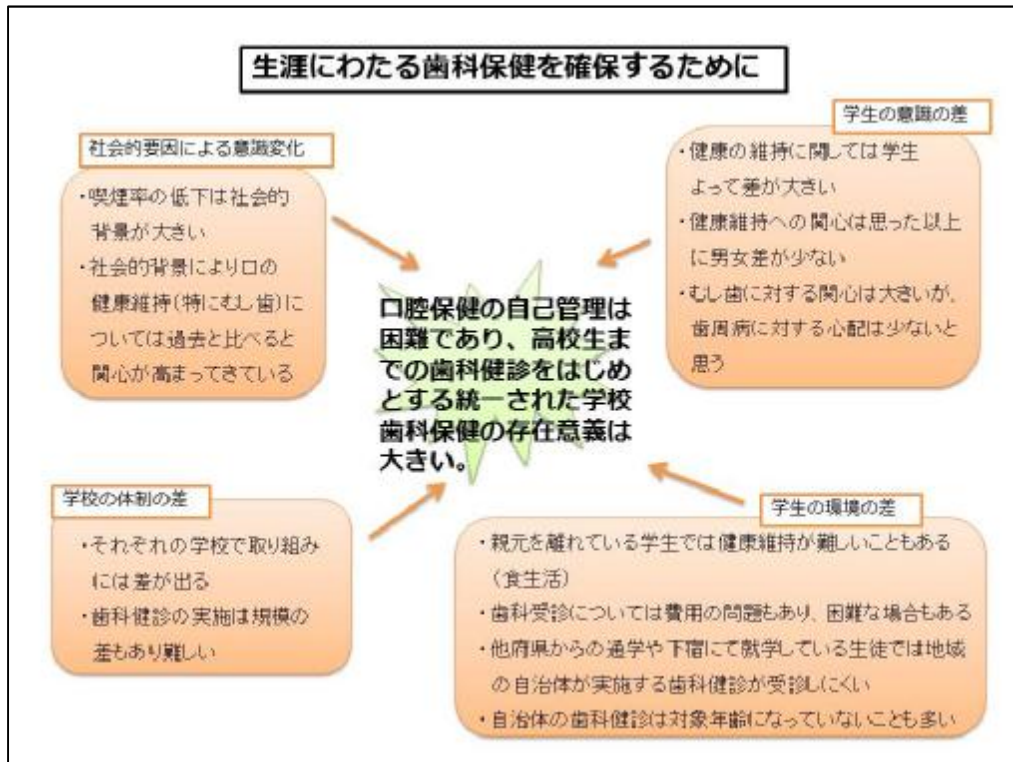


結論：生涯にわたる歯科保健意識の向上を図るには青年期より意識を変えていくことが非常に重要であり、その為には効果的な学生への啓発方法を今後学校で検討していく必要がある。学園祭等への歯科医師会等の団体の参加も検討する必要がある。

ファシリテーター意見：学校での啓発活動について、規模の大きい学校ほど難しいと考えられる。メールの一斉送信などの方法はあるが、やはりそれでは学生からの反応は期待できない。学園祭等で歯科医師会としてブース展開するなど、より多くの学生に関心を持ってもらえる方法を検討する必要があると考える。

< Bグループ >

テーマ：生涯にわたる歯科保健を確保するために



結論：高校生までの歯科健診をはじめとする学校歯科保健の存在意義は大きく、生涯に渡って類似の制度により歯科保健をカバーすることが理想である。

ファシリテーター意見：大学、短期大学、専修学校は規模も違えば制度もそれぞれ大きく異なる。また、学生の環境も、遠方から下宿していたり、寮生活だったり、実家だったり様々である。だからこそ、高校までの学校歯科保健のような全国で統一された制度が学生の意識付けには非常に重要であり、我々歯科医師会が行政に対して行う要望事項として今後検討していかないといけないと感じた。

(2) 「歯と口の健康サポーター養成研修会」研修会後のアンケート調査結果

表1 学校における歯と口の健康づくりに関する取り組み

取組み	校数	(%)
実施	2	40.0
未実施	3	60.0
未回答	0	0.0
合計	5	100.0

表2 学校で実施した歯と口の健康づくりの取り組みの詳細（複数回答可）

実施した取組み	回答数	(%)
歯科の定期健康診断	0	0.0
歯科の健康相談	0	0.0
学校行事を利用したの歯科普及啓発イベント	1	50.0
その他	0	0.0
無回答	1	50.0
全体	2	

表3 研修内容について事前にどの程度知っていたか

知識の有無	人数	(%)
ほとんど知っていた	2	33.3
ある程度知っていた	2	33.3
知らないことが多かった	2	33.3
ほとんど初めて知った	0	0.0
合計	6	100.0

表4 研修会や手引書の内容以外で知りたいこと、もしくは、もう少し詳しく知りたいこと

- ・うがいについて
- ・歯みがきの回数について
- ・歯周病と全身の関係
- ・老年期の歯や口の重要性
- ・全身と口の健康について

表5 研修による学校での歯科口腔保健の普及啓発の重要性

重要性の認識	人数	(%)
重要だと感じた	6	100.0
重要だと感じなかった	0	0.0
合計	6	100.0

表6 普及啓発媒体（クリアファイル）の効果的な活用方法について

(複数回答可)

配布場所	回答数	(%)
一般定期健康診断	2/6	33.3
就職説明会	0/6	0.0
講義	3/6	50.0
その他(保健室来室時)	2/6	33.3

表7 学生に対する普及啓発媒体に関する意見

・キャラクターを使えば持ちやすい

表8 今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みが実施出来るかについて

出来そうだと感じたか	人数	(%)
感じた	6	100.0
感じなかった	0	0.0
合計	6	100.0

表9 今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みについての詳細

(複数回答可)

検討できそうな取り組み	校数	(%)
普及啓発の機会増加	3/5	60.0
行事等での啓発コーナーの設置	2/5	40.0
その他	0/5	0.0

2-3 歯と口の健康リーダーによる学校への周知広報と実態調査

大阪府における8地域の二次医療圏のうち、平成29年度は泉州医療圏と大阪市医療圏に所在する大学・短大・専修学校に対して、「歯と口の健康リーダー」が大学・短大・専修学校（合計24校）に赴き、周知広報及び実態調査を行った。

また、併せて平成30年度に実施予定の「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した。

(1) 周知広報

【周知事項】

- ・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
- ・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法

(2) 実態調査

【調査項目】

- ・学校における保健担当者の有無及び職種
- ・学校での歯科健診実施状況
- ・その他、必要な事項

【実態調査結果】

表10 学校における保健担当者配置の認識の有無

認識	学校数	(%)
有	18	100.0
無	6	0
合計	24	100.0

表 11 保健担当者の職種別配置状況（複数回答可）

配置職種	全体		（内）大学		（内）短大		（内）専修学校	
	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)
医師	13	56.5	5	62.5	1	100.0	7	50.0
看護師	10	43.5	4	50.0	0	0.0	6	42.9
保健師	1	4.3	1	12.5	0	0.0	0	0.0
その他	5	21.7	3	37.5	1	100.0	1	7.1
全体	18		7		1		10	

表 12 「歯と口の健康リーダー」の周知に対する学校保健担当者の反応

設置	学校数	(%)
良い	19	78.3
普通	5	21.7
悪い	0	0.0
合計	24	100.0

表 13 学校での歯科健診実施状況

歯科健診	学校数	(%)
有	1	4.3
無	23	95.7
合計	24	100.0

2-4 学生に対する歯と口の健康づくり意識調査の実施

事業評価にあたり、経年的に学生の変化を調査するため、アンケート調査を実施した。

3 事業評価

平成 29 年度事業では、平成 28 年度に歯と口の健康リーダーによる周知広報を実施した 24 校のうち、5 校 6 名の学校担当者が歯と口の健康サポーター養成研修会に参加された。

研修会でのグループディスカッションでは、一度通院すればその後は歯についての意識も高まると思うので、最初の通院のきっかけがつかめるような無料歯科健診等を実施することで、学生も歯を大切にするのではないかという意見があがった。また、学内での周知に関しては、ボランティアサークル等の協力を得ることで学生に効果的に啓発できるのではないかという意見があった。

研修会を受け、すべての参加者（6 名）が、「学校での歯と口の健康づくりの取り組みが重要だと感じた」、また、「学生に対する歯科保健の普及啓発に関する取り組み出来そうだと感じた」と回答した。このアンケート調査結果から、「歯と口の健康サポーター」が、学校において学生に対して意識づけを実践することが期待できる。

また、今年度も昨年度と同様、府内に所在する大学・短大・専修学校 24 校に対し、歯と口の健康リーダー（地域保健担当歯科医師）が学校での歯と口の健康づくりについての取り組みを調査するとともに、平成 30 年度に実施予定の「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した。

歯と口の健康リーダーによる調査の結果、平成 29 年度に「歯科健診を実施している」学校が 24 校中 1 校（平成 26 年度調査：48 校中 0 校、平成 27 年度調査：24 校中 0 校、平成 28 年度：24 校中 4 校）であることが分かった。また、今年度、歯科健診を実施していると回答した 1 校は歯科衛生士専門学校のみであった。上記により、学生が高等教育終了後に「歯と口の健康」に関して意識を持つ機会が少ないことがわかる。

さらに、研修会でのサポーターに対するアンケート結果より、学校で「歯と口の健康づくりに関する取り組み」を実施した学校は、研修会に参加した 5 校の内 2 校（平成 26 年度調査：7 校中 1 校、平成 27 年度調査：16 校中 6 校、平成 28 年度調査：14 校中 5 校）であり、普及啓発後、研修会までの間に「歯と口の健康づくりに関する取り組み」を実施した学校は、平成 26 年度から研修会に参加された 42 校の内、約 33.3% であった。

以上のことから、本事業は青年期において歯と口の健康についての意識付けの機会として有用だと考えられるが、今後は「歯と口の健康サポーター」が学校で歯と口の健康づくりに関する取り組みを実施することによる学生の意識変化の状況についての評価や、継続的に活動してくださる学校へのフォローについて検討、実施していくことが望まれる。